



橋本さんたちは、「市街地に来るヒグマへの対策」についてパネルディスカッションを行います。次の二つの記事と話し合いの一部を読んで、あとの問いに答えなさい。

(A)

## クマ出没多発

ヒグマの目撃情報が道内各地で相次いでいる。過去を上回る頻度で出没している地域が多い。

クマと人との距離が年々縮まっているようだ。民家に近いケースも目立つ。住宅街や畑に入り込み、有害獣として駆除される頭数は増加傾向にある。

クマを人の生活圏に近寄せない対策がまずは重要だ。山林に近い市街地ではごみ集積所を適切に管理するなど、引き寄せる要因をなくすことが欠かせない。

人里に繰り返し出没するようになった個体は行政、警察、猟友会が連携して適切に対処する必要がある。

地域一体となってクマ対策に取り組む、住民の生活を守りたい。

旭川や砂川の市内では住宅地付近での目撃が続いた。土別市では先月、ハンターがクマに襲われ重

## 地域で連携して対処を

傷を負った。クマによるとみられる飼犬や家畜の被害が出ている地域もある。

クマの出没が近年増えている背景の一つと考えられているのが、地方の人口減少と高齢化だ。

この影響で放棄された農地が増えたり茂みが放置されたりし、山林と市街地の境界があいまいになり、クマの生息域が人の生活圏近くにまで広がっている可能性がある

と、専門家はみている。

簡単に実効性が高い対策とされるのが草刈りだ。生息域との境界にクマが嫌う見通しの良い場所をつくれれば、クマは容易には人里に近づかなくなるとされる。

札幌市南区石山地区では、住民が河川敷などの草刈りを行い、頻発していたクマの出没を抑制できているという。

札幌市は情報を広く発信し、ク

マに悩む地域を抱える自治体は、そのノウハウを住民に積極的に提供しサポートしたい。

山林に近い農地や家庭菜園には電気柵が有効だ。各自治体は設置補助の拡充を検討すべきだろう。

こういった対策を通して、これから先は人間の世界だ」とクマにはつきり示すことが肝心だ。

山菜採りなどで山林に入る人は事前に出没情報を確認し、クマの足跡やふんを見つけた場合は引き返してほしい。ごみは必ず持ち帰る必要がある。

住民に危険が及びかねないと判断された個体は駆除せざるを得ないが、その際、ハンターは自身と周囲の安全に十分注意を配らねばならない。

関係機関はふだんから意思疎通を図り、スムーズな連携に努めてほしい。

## ヒグマ狩猟延長

道がヒグマの狩猟期間の延長を検討している。10月から翌年1月末までとなっている現行期間を春まで延ばす考えで、専門家の検討会に案を示した。

近年相次ぐ市街地への出没を抑えるのが狙いという。モデル事業を数年行った上で、2026年2月からの実施を想定している。

だが道の期待する結果につなげるには課題が多い。実効性ある取り組みにするには、まずは現状の把握と分析が必要である。

道内では1966年から、冬眠中の個体などを積極的に狙う春グマ駆除が行われたが、生息数の激減を招き90年に廃止された。

以降、道はクマの保護を重視してきた。一方で最近各地で出没が相次いでいる。人を恐れない個体が増えたためとみられる。

そこで道は、狩猟期間を広げ、

## まず現状把握が必要だ

足跡が見つけやすく、狩猟が比較的容易な残雪期の入山をハンターに促す。クマに人への警戒心を植え付けたい考えという。

クマに一定のプレッシャーをかける施策への転換と言える。

しかし、クマの出没が問題となっているのは札幌をはじめとする住宅地の周辺が中心で、狩猟が禁じられている場所が多い。

また、どこで狩猟するかはハンターの自由で、道が望む地域に入るとは限らない。

さらに、五つに区分されている道内の個体群のうち、札幌を含む積丹・恵庭と天塩・増毛の二つは、環境省のレッドリストで絶滅の恐れがあるとされ、両地域での狩猟拡大は無理だろう。

狩猟期間の延長が問題の解消に有効なのか疑問が残る。

道内に生息するヒグマの実態は

判断としていないのが現状だ。直近の推定生息数は12年度の1万600頭±6700頭というあいまいな数字があるだけだ。

対策を立てるには、クマの生息域とその数の把握に努めるのが先ではないか。その上で、地域ごとに適切な頭数管理の枠組みを考えよう。これが筋だろう。

ヒグマは北海道の豊かな自然を象徴する存在だ。道は持続可能な狩猟のあり方を追求してほしい。

クマの捕獲には、ハンターが収入を得るために行う狩猟と、人などへの被害を防ぐ目的の許可捕獲(駆除)の二つがある。

かつて薬の原料として取引された胆のうなどの流通が現在ほぼほとんどなく、駆除が大部分を占める。

狩猟で得られた物を適正に流通させる体制の整備も、ヒグマの保護管理上必要になってこよう。



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 【話し合いの一部】

橋本：今日は、「市街地に来るヒグマへの対策」についてパネルディスカッションを行います。まずは順番にそれぞれの意見を聞きたいと思います。

細谷：自分は、少しでもヒグマの数を減らすために、ハンターを増やして、ヒグマの（ア）を延ばした方が良いと思います。そうすれば、狩猟できる数が増え、市街地に来るヒグマの数も減るはずです。

川口：私は、山林と市街地の境目があいまいになっているのが、ヒグマが市街地に来る原因だと思います。ですから、ヒグマが市街地に来ないようにするために、山林近くの土地を適切に管理すると良いと思います。

竹内：僕は川口さんの意見に賛成です。ヒグマを市街地に寄せ付けない対策が必要だと思います。例えば、山林に近い農地や家庭菜園に電気柵を設置するというのはどうでしょう。ヒグマもしびれる危険があると分かれば近寄ってこないはずですよ。

橋本：お互いに意見が発表できたようですね。では、パネリスト同士の討論にうつります。意見のある方は挙手をお願いします。はい、細谷さん。

細谷：川口さんに質問です。山林近くの土地を適切に管理するとおっしゃっていましたが、具体的にはどうするおつもりですか。

川口：例えば、ヒグマが嫌う見通しの良い場所を作るために（イ）を行うことができますと思います。この町の山林の近くの土地も草が伸びている所が多いので、ああいったところの（イ）を行えると良いと思います。

橋本：それでは、次にフロアを交えた全体討論を行います。意見のある方は挙手をお願いします。

①（ア）（イ）に当てはまる言葉を。五文字以内で参考記事から書き抜きなさい。

（ア） 

--	--	--	--	--

                      （イ） 

--	--	--	--	--

②線部「意見のある方は挙手をお願いします」に関連して、あなたがフロアだとしたら、誰にどのような質問をしますか。記事を参考に質問を考えなさい。

（                      ）さんに対して  
質問：